

# 中学校第2学年 外国語科 学習指導案

期 日 平成29年2月17日(金) 第2校時

場 所 山鹿市立山鹿中学校 2年2組教室

指導者 教諭 村上 沙代

## 1 単元名

「PROGRAM 10 So Many Countries, So Many Customs」 (SUNSHINE ENGLISH COURSE 2 開隆堂)

## 2 単元について

### (1) 単元観

本単元は、桃子とマイクのホームステイで体験したことについての会話を通して、文化の違いについて学ぶ単元である。ホームステイでの受け入れ方におけるオーストラリアと日本の違いや、会話における言い回しの違いを学ぶことで、文化の違いについて考えを深めることができる。

また、学習指導要領の内容ウ読むこと(オ)「話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること」や、内容エ書くこと(ウ)「聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりすること」を受け、読むことと書くことを統合した言語活動を設定する単元である。

本単元では、「違い」をキーワードとして設定する。そのことで、教科書本文の内容である「異文化体験」(「違い」と出会う経験)と、本単元の言語材料である「比較級・最上級」(「違い」を具体的に示す表現)を関連付けた学習活動を展開する。また、英語による自己表現では、様々な「違い」をテーマにした英作文を取り扱う。生徒たちが、本単元で学習した内容を基に、「違い」について考え、異文化理解の態度にとどまらず、他者を尊重する態度を育むことができるようにしていきたい。

本単元では、本校のCAN-DOリスト(書くこと)を活用して、本単元の学習到達目標を「自らの体験や今後の予定について、辞書等を用い、自分の考えや気持ちも入れて5文程度でまとめることができる」とする。書く活動については、ピア・レビュー\*の手法を活用し、生徒同士がお互いの英作文についてアドバイスする活動を行う。ピア・レビューを実践していく中で、生徒たちが協働場面における提案の仕方を身に付けることをねらう。本単元においてピア・レビューを行うことは、「協働解決のために自己表現する力」という資質・能力の獲得にもつながり、本校の学校教育目標の「自分の将来に夢や目標を持ち、自己実現に向けて挑戦し続ける生徒の育成」及び目指す生徒像の「あきらめない、絶対にあきらめない!」の実現につながるものであると捉える。

※ピア・レビュー：英作文を推敲する際に、お互いの英作文を読み合い、コメントを与え合う活動。

### (2) 系統観(本校CAN-DOリスト「書くこと」に基づく)

第1学年(2月)	第2学年(4月)	第2学年(10月)	第2学年(2月) 本時
PROGRAM 11 Flowers in the Classroom  【CAN-DO】 自分や家族、友達、好きなことなど身近で日常的な出来事などについて、3文以上の英語で正しく書くことができる。	PROGRAM 1 Did You Enjoy Your Vacation?  【CAN-DO】 自分が住んでいるところの観光名所や、今までに見た印象的な景色等について、辞書等を用いてつながりのある5文程度で紹介することができる。	PROGRAM 6 A Work Experience Program  【CAN-DO】 自らの体験や今後の予定等について、辞書等を用いて自分の考えや気持ちも入れて5文程度でまとめることができる。	PROGRAM 10 So Many Countries, So Many Customs.  【CAN-DO】 自らの体験や今後の予定等について、辞書等を用いて自分の考えや気持ちも入れて5文程度でまとめることができる。

### (3) 生徒観(男子18人、女子15人、計33人)

○第2学年では、生徒の希望に基づき習熟度別に分けて授業を展開している。本コースは「標準コース」である。本コースの生徒は英語を好んでいる生徒も多く、英語に対する興味・関心も高い。Classroom Englishを昨年度より多く使うようになって以来、生徒同士も短い文ではあるが英語で話そうとする姿が見られるようになった。

○平成 28 年度熊本県学力調査(英語)の結果は、以下のとおりである。(定着率)

	総合	書くこと	関心・意欲・態度	表現	理解	知識理解	知識	活用
第 2 学年	55.9%	42.3%	65.6%	29.8%	66.3%	69.4%	75.2%	43.0%
県平均	48.3%	32.5%	50.9%	22.6%	62.6%	57.2%	68.0%	35.2%
差	+7.6	+9.8	+14.7	+7.2	+3.7	+12.2	+7.2	+7.8

各項目とも大きく県平均を上回っている。しかし、「表現」の項目は「関心・意欲・態度」「外国語理解」「言語や文化についての知識・理解」の項目よりも 20%以上定着率が低い。

○事前意識調査の主な結果は、以下のとおりである。(平成 29 年 1 月 27 日実施, N=25)

質 問 項 目	肯定的回答
①人と協働する時、私は多くの人に関わることができるようにしている。	72%
②私は、英語の授業で周りの人にわからないところをきいたり、わからない人に教えたりしている。	72%
③私は、英語で文章を書くことができるようになりたい。	96%
④私は英語での授業で積極的に英語を使っている。	68%
⑤私は、CAN-DO リストを活用している。	32%
⑥私は、英語で簡単な文やメモを書くことができる。	80%
⑦私は、自分の趣味について 4～5 文のわかりやすいまとまりのある文章を英語で書くことができる。	64%

○「これからの社会に求められる資質・能力」として設定した「協働解決のために自己表現する力」について、72%の生徒が、協働する場面において自ら他者に対して働きかけていると回答している(質問項目①②)。このことから、残りの 28%の生徒は、「協働解決のために自己表現する力」について、認識や実感が高まっていないと考える。

○「書くこと」については、96%の生徒が肯定的な回答をしており、前向きな姿勢がうかがえる。しかし、授業中の英語使用や CAN-DO リストの活用については、他の項目と比べて肯定的回答の割合が低い。したがって、CAN-DO リストを活用しながら、生徒の英語使用場面を増やす工夫が必要であると考える。また、「わかりやすいまとまりのある文章を書くこと」については、「簡単な文やメモを書くこと」と比べると肯定的回答の割合が低いことから、文章構成や接続詞の使用等、「書き方」についての知識理解を深めながら、書く経験を増やしていく取組が必要であると考える。

#### (4) 指導観

○生徒が、文化や言語の違いにとどまらず、生徒の身の回りの違いや他者との違いなど、生徒自身の「違い」に対する受け止め方への気付きを引き出し、異文化を理解しようとする態度を育成していきたい。さらに、生徒が考えを広げて、他者を尊重する態度や、人権尊重の態度についても考えることができるようにしたい。

○教科書本文の内容である「異文化体験」(「違い」と出会う経験)と、言語材料である「比較級・最上級」(「違い」を具体的に示す表現)について、「違い」をキーワードとして設定し、教科書本文の内容と言語材料を関連付けながら、学習活動を進めていく。さらに、英作文のテーマをキーワードと関連付け、そのテーマについて自らの意見を書く活動を行う。それにより、生徒が「違い」についての考えを広げることができるようにしたい。

○「書くこと」については、生徒が自分の考えや経験などを英語で書くという経験を増やし、まとまりのある英文を書くことに慣れるようにする。また、CAN-DO リストを、目標設定や振り返りで活用することで、生徒が見通しを持ちながら学習し、明確な視点で振り返りを行い、学びを実感できるようにする。

○ピア・レビューを通して、生徒がアドバイスを行う具体的な手順(褒め言葉・提案・訂正)を学び、日常生活の様々な協働解決の場面で学んだことを活用できるようにする。また、生徒自身が、アドバイスを行う視点から自らの英作文を見直すことができるようにしたい。

<p><b>学びを引き出す</b> 学習活動を生む 「問い」の工夫 (言語活動の充実)</p>	<p>①教科書本文の内容に基づき、「違い」をキーワードとして、本文内容理解と言語材料定着をねらった学習活動を展開する。 ②英作文のテーマを、具体的なものから、段階的に抽象的なものにより、生徒の「違い」についての考えが広がるようにする。</p>
<p><b>学びを振り返る</b> 思考過程の可視化と 学びの振り返り</p>	<p>③構造化したワークシートを用い、生徒が考えの変容を見取れるようにする。 ④振り返りの場面において、CAN-DO リストを活用し、生徒が学びを実感できるようにする。また、資質能力についての自己評価も行うことで、「協働解決のために自己表現する力」を意識できるようにする。</p>
<p><b>学びを支える</b> 学びのUD化と ICTの活用 及び支持的風土</p>	<p>⑤ピア・レビューを通して、協働する際のアドバイスの仕方を学び、「協働解決のために自己表現できる力」を育み、お互いの意見を認め合う雰囲気づくりを目指す。 ⑥生徒が学習内容だけでなく、学習活動の方法まで把握できるよう、ICT を活用し共有化を図る。</p>

3 単元の目標と評価規準（参考：国立教育政策研究所作成「評価規準の設定例」）

<p>単元の目標</p>	<p>①教科書本文を、語句・表現・文法事項などの知識を活用して、内容を正しく読み取ることができる。 ②自分の考えを5文程度にまとめて書くことができる。 ③ペア活動において、お互いの英作文の良い点を指摘し、改善の提案をすることができる。 ④比較級・最上級を用いた文の構造・意味を理解することができる。</p>		
<p>コミュニケーションへの 関心・意欲・態度</p>	<p>外国語表現の能力</p>	<p>外国語理解の能力</p>	<p>言語や文化についての 知識・理解</p>
<p>①ペアの相手が書いた英作文に対して、良い点を指摘し、改善の提案をしようとしている。</p>	<p>①「違い」に関するテーマについて、自分の考えを書くことができている。</p>	<p>①桃子とマイクの会話に出てきた言語や文化の「違い」を読み取ることができている。</p>	<p>①比較級・最上級を用いた文の構造・意味を理解している。</p>

4 指導・評価の計画（7時間取扱い 本時6／7）

次	時	学習活動	評価及び研究の視点
一	2	<p>1 more＋形容詞＋than / the most＋形容詞 / better than / the best(副詞)を用いた文を正しく理解する。 2 まとまりのある英文の特徴について意見を出し合い、「チェックリスト」としてまとめる。(チェックリストを、ピア・レビューにおけるアドバイスの視点として活用する。) 3 ピア・レビューのねらいと方法を理解する。</p>	<p>【知識・理解①】ワークシート 【学びを支える】 ⑥言語材料の定着や、ピア・レビューの方法などの説明においてICTを活用し、共通理解を図る。 ⑤ピア・レビューのねらいと方法を理解し、アドバイスをしやすい雰囲気づくりができるようにする。</p>

二	2	<p>4 教科書 P. 89 の会話の内容から、言語や文化の「違い」を読み取る。</p> <p>5 山鹿市の夏と冬のどちらがよいかについて比較をしながら 5 文程度のまとまりのある英文を書く。</p> <p>6 お互いの英作文について、良い点を指摘し、アドバイスをを行う(ピア・レビュー)。</p>	<p>【外国語理解①】ワークシート</p> <p>【学びを引き出す】</p> <p>①「違い」というキーワードを導入し、単元を見通した学習活動ができるようにする。</p> <p>【学びを振り返る】</p> <p>④CAN-DO リストを活用した振り返りを通して、学びを実感できるようにする。</p>
三	1	<p>7 教科書 P. 91 の会話の内容から、言語や文化の「違い」を読み取る。</p> <p>8 日本と諸外国との文化等の「違い」について 5 文程度のまとまりのある英文を書く。</p> <p>9 お互いの英作文について、良い点を指摘し、アドバイスをを行う(ピア・レビュー)。</p>	<p>【外国語表現①】ワークシート</p> <p>【学びを支える】</p> <p>⑤「褒め言葉・提案・訂正」の流れを踏まえて、お互いの英作文に対してアドバイスをを行うことができるようにする。</p> <p>【学びを振り返る】</p> <p>④CAN-DO リストを活用した振り返りを通して、学びを実感できるようにする。</p>
四	1 ※ 本 時	<p>10 教科書 P. 92 の会話の内容から、言語や文化の「違い」を読み取る。</p> <p>11 「違い」があることがよいかどうかについて 5 文程度のまとまりのある英文を書く。</p> <p>12 お互いの英作文について、良い点を指摘し、アドバイスをを行う(ピア・レビュー)。</p>	<p>【外国語表現①】ワークシート</p> <p>【学びを引き出す】</p> <p>②「違いがあることはよいことか」というテーマを設定することで、「違い」について自分の考えを広げることができるようにする。</p> <p>【学びを支える】</p> <p>⑤「褒め言葉・提案・訂正」の流れを踏まえて、お互いの英作文に対してアドバイスをを行うことができるようにする。</p> <p>【学びを振り返る】</p> <p>④CAN-DO リストを活用した振り返りを通して、学びを実感できるようにする。</p>
五	1	<p>13 教科書本文の内容やメッセージおよび作成した英作文を基に、「違い」に対する自分の考えをまとめ、5 文程度で書く。</p> <p>14 お互いの英作文について、良い点を指摘し、アドバイスをを行う(ピア・レビュー)。</p> <p>15 クラス全体で意見を共有する。</p>	<p>【関心・意欲・態度】ピア・レビュー観察</p> <p>【学びを振り返る】</p> <p>③ワークシートを見直し、教科書本文の内容や自らの英作文を振り返りながら、思考の広がりを実感し、「違い」についての自らの考えをまとめる。</p> <p>【学びを支える】</p> <p>⑤お互いの英作文に対してアドバイスをを行い、相手の意見を認める雰囲気づくりができるようにする。</p> <p>【学びを振り返る】</p> <p>④CAN-DO リストを活用した振り返りを通して、学びを実感できるようにする。「共同解決のために自己表現する力」についても振り返りを行うことで、資質能力の高まりも実感できるようにする。</p>

5 本時の学習

(1) 目標

- ①マイクと桃子の会話の内容から、言語や文化の「違い」を読み取ることができる。
  - ②「違い」があることの是非について、自分の考えを5文程度の英文を書くことができる。
- ※CAN-DO リスト（書くこと）

「自らの体験や今後の予定等について、辞書などを用い、自分の考えや気持ちも入れて5文程度でまとめることができる。」

(2) 展開

過程	学 習 活 動	指導上の留意点及び評価	備考
導入 5分	1 Pattern Practice  2 Today's Goal	○ペア活動によるPattern Practiceにより、生徒が比較級・最上級を用いた文に慣れるようにする。 ○生徒が本時の見通しを持てるようにする。	電子黒板  板書 CAN-DO リストの 掲示
展開 ① 20分	3 Reading ①新出単語練習 ②教科書本文リスニング ③ワークシート完成 ④本文音読	<b>徹底指導</b> (ポイント) マイクと桃子の発言の中の、言語や文化の「違い」を読み取ることができる。	ワークシート CD 電子黒板
展開 ② 10分	4 Writing 【言語活動】設定の意図 CAN-DO リスト（書くこと）に基づき、「違いがあることはよいことか」というテーマについて、自分の考えを5文程度の英文でまとめる。このテーマにより、異文化体験の有無にかかわらず、「違い」について生徒が考えを広げることができるようにする。	<b>【学びを引き出す】</b> ②「違いがあることはよいことか」というテーマを設定することで、「違い」について自分の考えを広げることができるようにする。 <b>能動型学習</b> (ポイント) 教科書の内容や自分の経験に基づき、「違いがあること」についての自分の考えを5文程度の英文でまとめる。	テーマを 板書  ワークシート
展開 ③ 10分	5 Peer Review 【言語活動】設定の意図 生徒が作成した英作文に対して、お互いにアドバイスを行う。この活動を通して、生徒が提案やアドバイスの仕方を学ぶことで、本校が設定した資質能力「協働解決のために自己表現する力」を育むことをねらいとする。	<b>評価：外国語表現①（ワークシート）</b> <b>B基準</b> テーマに対して、自分の考えを5文程度の英文でまとめている。 <b>A基準</b> B基準に加え、代名詞・接続詞を適切に使用し、理由や具体例などを添えて英文を書いている。 <B基準に達していない生徒への手立て> ○自分の考えが思いつかない生徒に対しては、自らの経験を振り返らせたりすることで、生徒の気づきを引き出す。	電子黒板
整理 5分	6 Sharing & Reflection ①英文発表 ②振り返りシート記入 ③次時への見通し	<b>【学びを支える】</b> ⑤「褒め言葉・提案・訂正」の流れを踏まえて、お互いの英作文に対してアドバイスを行うことができるようにする。  <b>【学びを振り返る】</b> ④CAN-DO リストを活用した振り返りを通して、学びを実感できるようにする。 ○生徒が、書くことについてどれだけできるようになったかを認識し、次時への意欲を高めるようにする。	振り返り シート

